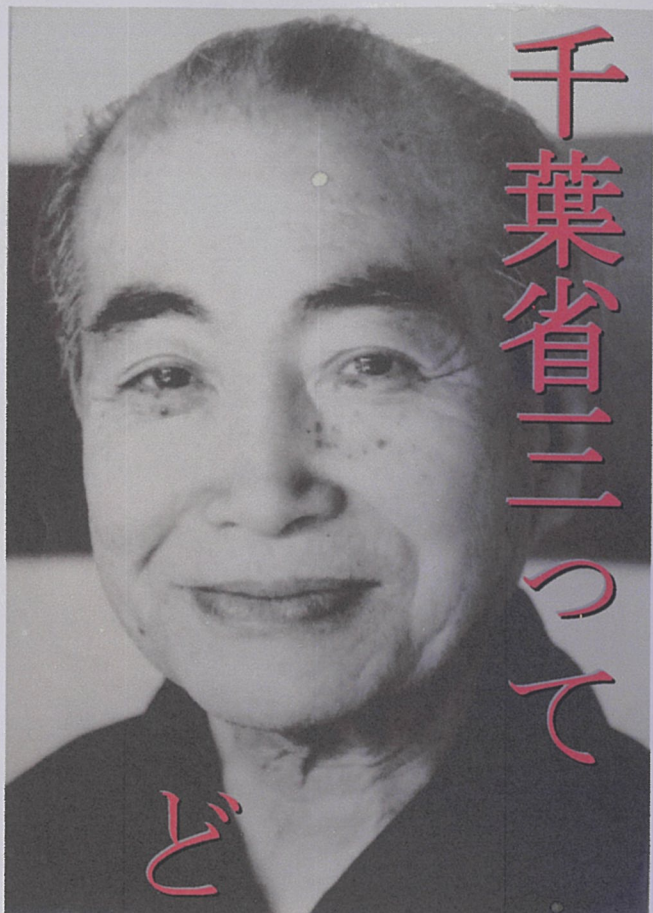
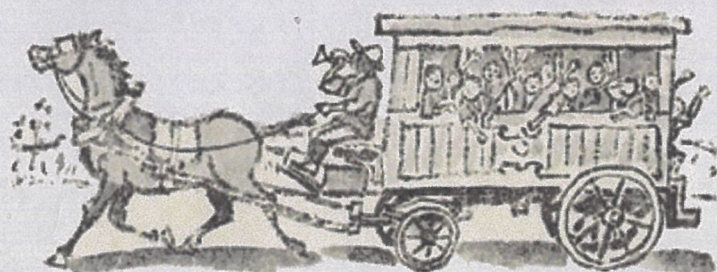




どんな人

楡木小KLV



はじめに

千葉県三の数ある作品に触れ、作品を愛していると思っていたのですが、いざ「千葉県三その人は、どこで、どんなことを・・・」と何も知らないことに気づきました。

今回 千葉県三記念館移転再開のはこびにあたり 「千葉県三の生い立ち」(楡木小学校カリブーKLV製作の紙しばい)をもとに、理解を深めることができればと思い、この冊子を作成しました。

楡木小学校カリブーKLV



鹿沼で育ち

鹿沼が育てた

千葉県三

記念館移転
再開記念誌
第 3 号

千葉県三先生をかこむ会
和服の省三

千葉県三 < ちば しょうそう >

1892年(明治25年)11月27日生まれ。日本の近代児童文学史上屈指の作家。「村童もの」とか「郷土童話」とよばれる作品で、生き生きとした子どもの世界を描いた最初の作家である。作品は、今も新鮮な生命力をもって読者にむかえられている。

省三の作品

(村童もの)

作品名	舞台		発表年
虎ちゃんの日記	楡木	★	大正14年
つけひげ	上殿		大正15年
芝居ごっこ	楡木		大正15年
タカの巣とり	塩山	○	昭和3年
兵隊彦さん	楡木		昭和3年
定ちゃんの手紙	楡木		昭和3年
乗合馬車	南上野		昭和4年
高原の春	南上野	○	昭和4年
遠いラッパ	楡木		昭和4年
けんか	磯	○	昭和4年
井戸	磯	○	昭和4年
仁兵衛学校	磯	○	昭和4年
安のはなし	楡木		昭和5年
幸平じいさんと馬車	楡木		昭和5年
大藪ぬけみち	楡木	○	昭和10年
シヨンベン稲荷	楡木	○	昭和11年
欄間のほりもの	楡木		昭和12年
省三の生い立ち		★	

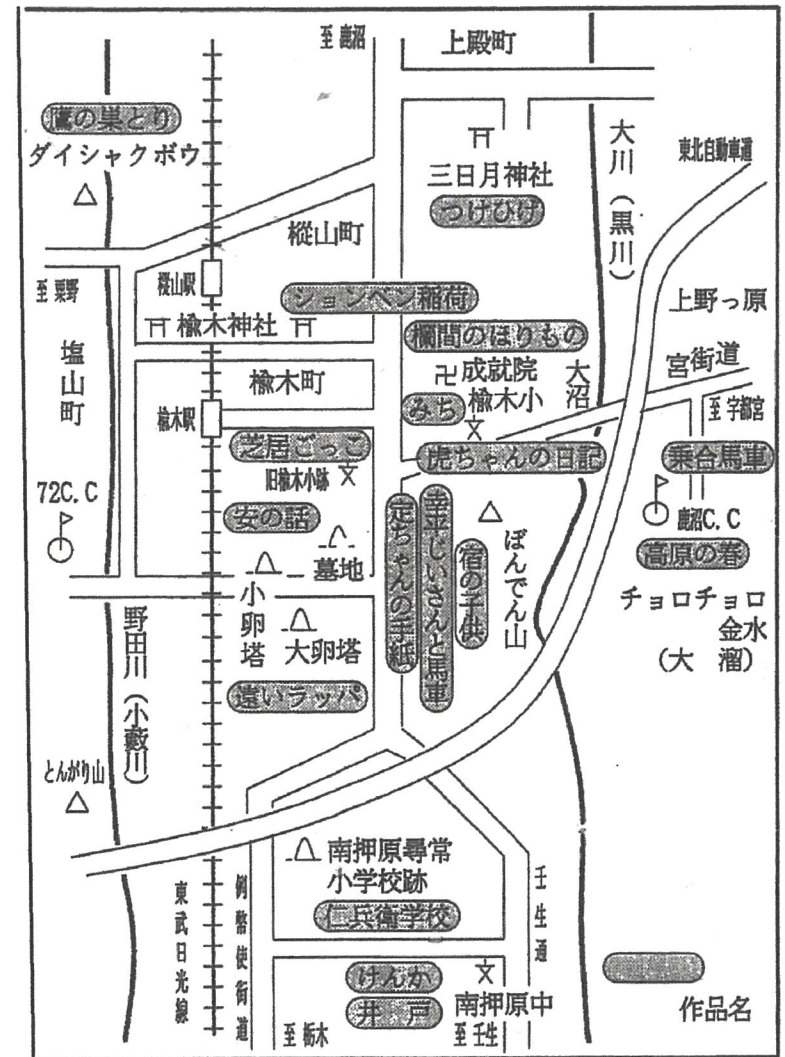
紙しばい ★

影絵 ○

鹿沼と千葉省三

千葉省三は、6才の時から22才で上京するまでの15年間を、鹿沼の楡木で過ごした。楡木尋常小学校、南押原高等小学校で学んだ省三は、宇都宮中学(現、宇都宮高等学校)に進んだ。

省三は、少年時代の思い出や体験をもとに、鹿沼を舞台に、鹿沼の方言を使って多くの作品を書いているが、これらの作品には魅力あるわんぱくな村童たちが登場する。それらの村童は、省三の小学校時代の友だちがモデルになっている。



影絵紙しばい

となった楡木宿と近郊（半径 2 km 以内）



(創作童話)

作品名		発表年・ほか
機関車と月のはなし	○	大正10年
五右衛門風		大正11年
チックタック	○	大正12年
めくらと子犬		大正13年
おさるのしくじり	○	大正13年
月をみがくひと	○	大正14年
梅づけの皿		大正14年
ワンワンものがたりシリーズ		昭和4年
1. おねぼうなワンワン	○	
2. しっぽのないワンワン	○	
3. お月さんをたべたはなし	○	
4. おさかなにつられたはなし	★	
5. たばこをすったワンワン	★	
おばけはなし		昭和5年
陸奥の嵐		昭和7年 (映画化)
鼻とりじぞう	○	昭和12年
千葉県三先生よりの贈りもの		
ワンワンとかけっこしたはなし	★	
ワンワンものがたり	★	

紙しばい ★

影絵 ○

生誕

千葉省三は、母ハマの実家、宇都宮市篠井で、一八九二年十一月二十七日に生まれました。

父（亀五郎）が、今市市吉沢（現日光市）の小学校に勤めているとき、そこで弟の義男が生まれました。



吉沢で

吉沢では、近所に遊ぶ子がいなかったのので、兄弟二人だけで、自然の中のびのびと過ごしました。

ある日、川で石の投げっこをしていると、弟は石を投げた力が余って、川に落ちてしまいました。

二、三日前に降った雨のため水かさも多く、弟が流されてしまいます。その川の下手（しもて）には水車があるのでまきこまれたら大変です。



「よしぼうが、川に落っこちた。」
大声を聞きつけた母親が、夢中になって川に飛び込み、もう少しで水車にまきこまれる弟を助けることができました。

千葉省三の おいたち

楡木小学校KLV 製作

子どものように、おどろきたい。
子どものように、よろこびたい。
子どものように、おこりたい。
子どものように、多泣きに泣きたい。

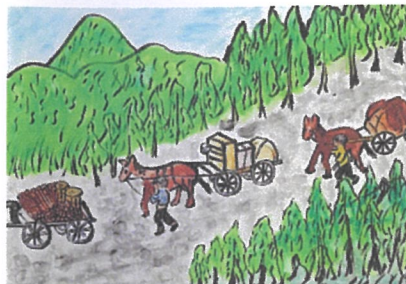
千葉省三

馬車の行列

父親の転任で、今度は、吉沢よりずっと南（約三十km）の、榆木という所へ引っ越すことになりました。

父親が辞退しても、村人たちは、「どうかこれを…。」

といって、味噌やら野菜、漬け物などを馬車に積んで榆木まで見送ってくれました。そのときの馬車の行列は、長々と例幣使街道を通っていったということです。



榆木の宿で

榆木へ着くと、ものめずらしさで、宿の子どもたちが遠巻きに集まってきました。榆木へ来る前、省三は母親に、

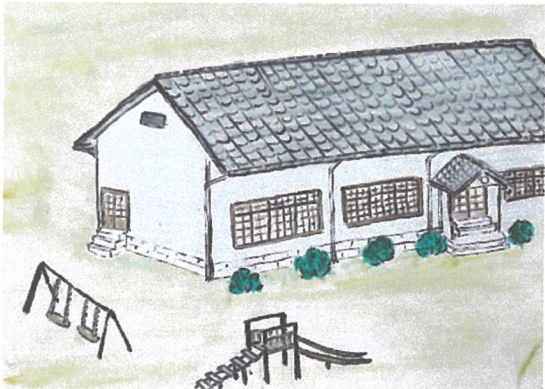
「今度行く榆木は宿場だちゅうから、マンヂュウ屋だのがあってにぎやかだけど、いいわいい子どもがいるから…おとなしくしてろ。」と言われていました。



二年生に飛び級

省三は、父親が自慢するほど頭のよい子だったので、小学校一年生に入学せず、飛び級として、二年生に入学しました。

教室では、何でもよくできて、みんなから一目置かれていました。



小さい省三の悩み

でも、休み時間になると、教室で勉強ができない男の子などは、

「やい、豆省。」

とか、

「ちび省、こんなことできねだろ。」

などと言って、体の小さい省三をいじめたり、ばかにしたりしました。



ストーブ

明治三十八年（一九〇五年）、かぞえ年十四才で宇都宮中学に入学し、下宿生活をしました。中学一年の時、日光への修学旅行での作文が優秀だったので校内で入賞しましたが、上級生（二年生）に睨まれ、教科書等をストーブに投げこまれてしまう事件がありました。



この頃、半田良平と知り合い、良平の影響を受けて、歌を作ったり文章を書いたりするようになりました。

代用教員

宇都宮中学（現、宇都宮高校）を卒業した省三は、その上の学校へ入学するつもりだったのですが病気になる、榆木で療養したのち、榆木小学校と磯小学校で三年間、代用教員として勤めました。



千葉省三先生の教え子たちは「千葉先生は、作文の指導が上手で、いつも『思ったことを、そのまま、見たことをそのまま書け』と言っていました。」「休み時間や放課後、オレらに本を沢山読んでくれたっけ。」と、話してくれました。

児童文学誌創刊

十五年間を榆木で過ごした省三は、大正十三年に（二十二才で）東京へ行き、子どものための本を苦勞して創刊しました。雑誌「童話」「赤い鳥」幼年雑誌「良友」などです。

それらの物語には、いつも省三の考え方が書かれていました。



同人誌創刊

昭和三年七月、省三が三十六才の時、やっと思い描いていた「童話文学」が誕生しました。その創刊号には「どろぼうとラッパ」「たかのすとり」の二編がのっています。

この「童話文学」は、昭和六年まで三年半も続きました。

その後「児童文学」と名を変えて、昭和十年にまた同人誌が復活しました。



郷土の物語

復活した同人誌「児童文学」には、創作物のほか、楡木を舞台とした作品を、次から次へと発表しました。

宇都宮から楡木へ向かう『乗合馬車』の会話や移り変わる風景。更に、その続編ともいえる『高原の春』上野原の自然の様子がえがかれています。



「高原の春」



「チョロチョロ金水」

「けんか」でいつもばかりにされ、負けてばかりの少年が、相手をやつつけて勝ったのに大泣きする物語。

誰も嫌がって入らない井戸へ落ちたボールを拾い上げ、

「死んだネコツ子でやんす。」

と、うつぶんをはらす子どもの心中の思いを生き生きと表現しています。



「けんか」

「仁兵衛学校」や「シヨンベン稲荷」にみられる悪意のないいたずらや生き生きとした様子や、冒険好きな悪童たちの姿が「みち」「竹やぶ」の物語に書かれています。



「シヨンベン稲荷」

当時の世の中

昭和十年頃、世の中がさわがしくなり、後に戦争が始まると、省三は、新潟県の方へ疎開して、作品を書かなくなりました。

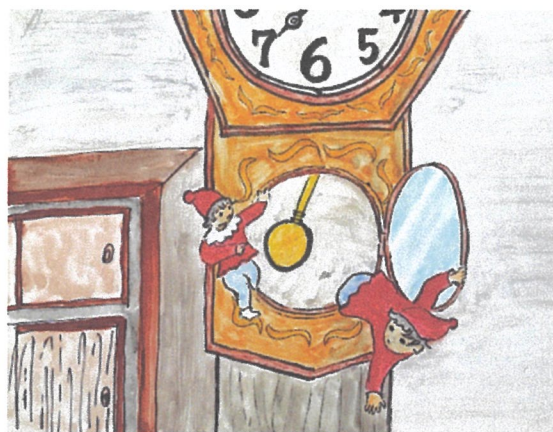
仁兵衛学校



「仁兵衛学校」

作品が教科書に

その後、戦争が終わって世の中が落ち着き、「千葉省三の作品はすばらしい」という声があがりました。「チックとタック」が一年生の国語の教科書にのり、



「チックタック」

「たかのすとり」が五年生の国語の教科書にのりました。



「たかのすとり」



楡木小訪問

省三七十六才のとき、「千葉省三文学全集」の出版が有り、その記念に、児童文学仲間が、「虎ちゃんが住んだ村、遊び、かけずり回った野山を見たい」ということで、楡木小学校を訪問しました。そして、体育館で昔の思い出話をした後で、省三作の紙しばい「あんぱんをみつけれはなし」と「わんわんものがたり」の二作をおみやげにくださいました。この紙しばいは、図書室で大切に保存しています。



楡木小学校校門前で
後列左から2番目

省三の最後

省三は、昭和五十年十月三日、心不全のため、八十三才で亡くなりました。省三の作品を愛した人々は、今でも「虎ちゃん忌」として集まっているそうです。



千葉省三の略年表

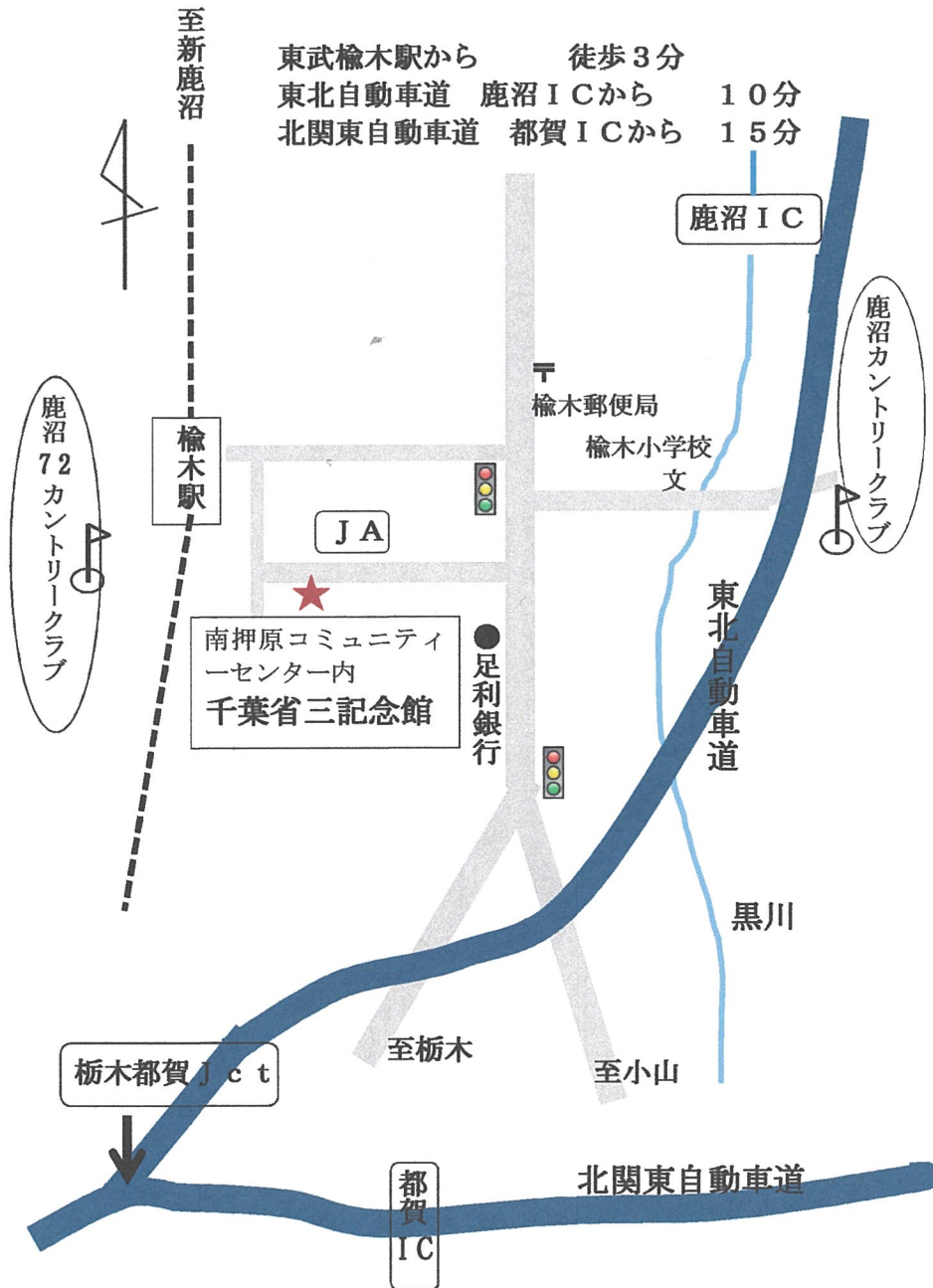
西暦	年代	年齢	できごと
1892	明治25年	0歳	11月27日、栃木県河内郡篠井村（かわちぐんしのいむら）（現在の宇都宮市篠井町）に誕生。
1894	明治27年	2歳	校長を勤めていた父が、今市市（現在の日光市）の吉沢尋常小学校に転任になったので、いっしょに今市の吉沢というところに引っ越した。
1899	明治32年	7歳	父が鹿沼市の楡木小学校に転任になったので、いっしょに楡木に引っ越す。同校へ転校。
1901	明治34年	9歳	南押原高等小学校（現在の南押原中学校）に入学。
1905	明治38年	13歳	宇都宮中学校（現在の宇都宮高校）に入学。同じ学校の先輩半田良平に才能を認められる。
1910	明治43年	18歳	宇都宮中学校を卒業。病氣療養の後、楡木小学校の代用教員になる。
1914	大正3年	22歳	半田良平をたよって、上京。出版社「日月社」に入社。
1917	大正6年	25歳	増淵貞子（ますぶちさだこ）と結婚。「コドモ社」に入社。
1920	大正9年	28歳	雑誌の編集責任者になり、雑誌「童話」（コドモ社）を創刊。
1923	大正12年	31歳	コドモ社を退社、作家活動に専念する。
1925	大正15年	33歳	『虎ちゃんの日記』を雑誌「童話」に発表。
1928	昭和3年	36歳	同人誌「童話文学」を創刊。『鷹の巣とり』を発表。
1929	昭和4年	37歳	『童話文学』に『乗合馬車』『高原の春』『遠いラッパ』『けんか』『井戸』『仁兵衛学校』などを発表。最初の童話集『トテ馬車』を出版。幼年童話『ワンワンものがたり』を出版。

1932	昭和7年	40歳	雑誌「少女倶楽部」に『陸奥（むつ）の嵐』を連載。第二童話集『葱坊主』、第三童話集『地蔵様』を古今書院より出版。
1935	昭和10年	43歳	人誌「児童文学」を創刊。同誌に『みち』を発表。翌年、同誌に『シヨンベン稲荷』を発表。
1938	昭和13年	46歳	第四童話『竹やぶ』を古今書院より出版。
1939	昭和14年	47歳	毎日新聞事業部で『虎ちゃんの日記』を映画化。
1958	昭和33年	66歳	東京都北多摩群（きたたまぐん）小平町（現在の東京都小平市）に転居
1965	昭和40年	72歳	『チックタック』が『チックとタック』と改題され、小学一年国語教科書（光村図書）に採用される。
1967	昭和42年	75歳	第二回児童文学賞（モービル石油主催）を受賞。
1968	昭和43年	76歳	「千葉省三童話全集（岩波書店）」に対して 第十五回サンケイ児童出版文化大賞受賞。楡木小学校で出版記念公演。
1975	昭和50年	83歳	10月13日 心不全のため永眠。

1977	昭和53年	『鷹の巣とり』が小学四年国語教科書（東京書籍）に採用される。	
1993	平成5年	千葉省三の作品・遺品類が鹿沼市に寄贈される。千葉省三記念館が開館される。（鹿沼市楡木町 現在移転）	
2015	平成27年	新しく「千葉省三記念館」が開館。（鹿沼市楡木町 南押原コミュニティ内）	

★千葉省三記念館★ アクセス

東武楡木駅から 徒歩 3 分
 東北自動車道 鹿沼 IC から 10 分
 北関東自動車道 都賀 IC から 15 分



おわりに

千葉省三は父親の転勤によって楡木で幼少期から成人までの期間を過ごすことになりました。

楡木の自然の中にすっぽりと入り込み友達との思い出多いくらしを経験したことが後に児童文学への道を進むことになりました。

生き生きとした新しい子供達の姿を表情豊かに表現したことで児童文学者として高く評価されました。

私達は、このような素晴らしい先輩を身近に持っていることを誇りに思います。

千葉省三記念館 移転再開記念誌
 第三号

千葉省三ってどんな人

発行日 平成二十八年十月

編集発行 楡木小 K L V カリブー

発行所 〒三三二一〇五二六

鹿沼市楡木町七〇一二

鹿沼市立楡木小学校

TEL〇二八九七五二〇四四